

アジアで初めての日韓両国によるサッカーワールドカップが開催された平成14年は、成田市にとって大きな節目を迎えた年となりました。

第1番目は、建設が決まってから36年、開港してから四半世紀、2本目の滑走路として暫定平行滑走路が供用開始されました。第2番目は市町村合併問題で、空港周辺地域2市8町1村による成田地域任意合併検討協議会の設立でした。地域の将来に関わる重要な問題とあって、市民の関心が非常に高かったものでした。

成田国際空港

2本目の滑走路がオープン

第二の開港

昭和53年の開港以来、4千m滑走路一本で運用されていた成田国際空港は、平成14年4月18日、2本目の暫定平行滑走路(2,180m)が供用開始しました。

反対派との話し合いで建設を中



ミッキーマウスも加わり、祝賀ムードを盛り上げたテープカット
(平成14年4月17日)

断っていた二期工事は、サッカーワールドカップ開催に間に合わせるため平成11年12月に再開。しかし、滑走路内予定地の土地の買収ができず、当初計画の2,500mより320m短縮して平成13年10月に完成しました。

供用開始を前日に控えた17日

新滑走路上では安全祈願祭、記念式典が行われ、扇千景国土交通大臣、中村徹・新東京国際空港公団総裁、堂本曉子千葉真知事、小川国彦成田市長らが開港を祝いました。小川市長は、「成田に空港を設置すると閣議決定された昭和41年以来的歴史的経緯があり、多くの苦勞で第二の開港を迎えることができました」と述べました。

式典後、新滑走路上ではテープカットが、正午過ぎには地元商工会関係者や市長らを乗せた離陸一番機や一般から募ったツアー客が乗る記念チャーター便が鹿児島と沖縄に向け飛び立ちました。

年間発着回数は20万回に
充実する空港機能

暫定平行滑走路の完成で、成田空港の年間発着枠は、13万5千回から20万回へと約1.5倍に増加。新規乗り入れ航空会社は14社増加し、全体で39カ国2地域68社に拡大しました。

また、既成路線の中では、中国便が2倍、韓国便が1.5倍にな



暫定平行滑走路は、ジャンボ機の運行ができない、「へ」の字形に曲がった誘導路、民家の頭上40mを飛行機が通過するなど課題を残したオープンとなりました

り、発着全体に占めるアジア路線の割合は54%となり、アジアの拠点空港となっています。

一方、増加する航空需要に対応するため、第1旅客ターミナルビルでは、最新設備のサテライトが登場し、利便性・快適性がアップ。第2旅客ターミナルビルでは、最先端のITを駆使し、新しい空港づくり(e-エアポート構想)が進められています。

3市と友好都市に

成田市と同じく国際空港をもつ仁川広域市中心区(韓国)、古い歴史と伝統を誇る井邑市(韓国)、先進的な福祉行政を実現しているネストベズ市(デンマーク)。成田市はこうした諸都市とサッカーなどの市民スポーツ交流、中学生のホームステイ交流や市民サークルの相互訪問、行政職員の研修派遣などを通じ交流を重ねました。その結果、平成10年9月、平成10年1月、平成15年3月にそれぞれの諸都市と友好都市となりました。



ネストベズ・イェンセン市長が市内の保育園を視察(平成15年7月15日)



井邑市の太鼓チームが成田太鼓祭でサムルノリを披露(平成16年4月10日)



仁川中区で行われた親善サッカー大会歓迎式(平成14年7月27日)

保健・医療・福祉の拠点が誕生

平成元年、保健福祉館の前身となる老人福祉センターの再建要望がきっかけで建設されたもの。木造平屋建てで段差のないバリアフリー仕様の建物です。平成15年7月にはマザーズホームが、16年4月には急病診療所がオープンし、小川市政の「保健・医療・福祉が一体化し、市民が安心して暮らせる福祉のまち」を目指した施設が完成しました。



完成した保健福祉館(平成14年7月)



講演会や健康体操など様々な形で利用されている多目的ホール

駅づくり・まちづくり

成田新高速鉄道を活かしたまちづくりを提唱

成田国際空港と東京都心を30分台で結ぶ成田新高速鉄道。空港アクセスや沿線地域の発展・振興の点からも早期着工が叫ばれていました。暫定平行滑走路のオープン後、駅づくり・まちづくり実行委員会主催による公開討論会が開催されるなど、事業の推進・実現に向けて最重要課題の一つとなりました。



駅づくりの重要性を訴える小川市長(平成14年5月19日)

成田空港圏の11市町村合併案が白紙に

市町村合併

成田国際空港のもっている潜在的な能力を最大限に活かすため、合併は有効な手段の一つという考えのもと、平成14年11月18日、成田市周辺の2市7町は、任意の合併検討協議会設置に合意。最終的には県内最多の2市8町1村が参加し、空港周辺地域の一体的な発展を目指し、さまざまな課題が話し合われました。しかし、平成15年3月5日、市議会で法定協議会設置議案が否決。合併構想は白紙に戻り、その責任を取って小川市長は辞職しました。



第4回成田地域任意合併検討協議会(平成15年2月8日)